

むこう

2010年12月20日発行
第 108 号

〒650-0044
神戸市中央区東川崎町1-5-7
神戸情報文化ビル3F文化村
連絡先 TEL・FAX (078) 361-5056
e-mail:kobe_honmanokai@yahoo.co.jp
<http://www.honmanokai.com>

神戸をほんまの文化都市にする会



アヤソフィア

6世紀（532～537年）建設。イスタンブール。

ビザンチン建築の最高傑作といわれる。長さ77m、幅71m、高さ55m以上のドームをペンデンティブ（四角い平面に丸い屋根を載せるため隅部に三角形の継ぎ目を設ける）の技術で支え、この美しい空間を作ったことは現代でも驚異といわれる。キリスト教寺院、イスラム教のモスクとして使われ、現在は博物館となっている。

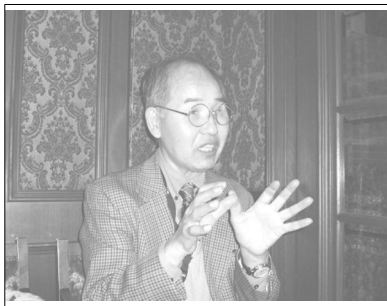
（竹山清明）

探訪記

FM ROCCO 開設への道

NPO ひがしなだコミュニティメディア
副理事長 森田 三郎（甲南大学文学部教授）

12月5日、森田先生とお会いしたのは、ひがしなだコミュニティメディア番組制作講座の第1回1期生の講座が終わった後でした。しかし、私は、うっかりとFM放送の初日と思い込んでいました。それほど前から、甲南大学で放送が始まるように聞いていたからです。



「コミュニティラジオ局を作るのは、想定以上の資金が必要だと分かり、メンバーで議論を重ねました。そこで、小さなミニFM局をたくさん作ってネットワーク化する新しいプランに変更しているところです。取りあえずインターネットを使った実験放送から始めようと一期生の公募をしました。」折込広告やサポーターを募ってみたら、反応がよく、こういうことをやりたかった、待っていたという人が集まりました。アナウンサーコース1期生5名、2期生5名、制作コース5名。62歳の男性1名の他は女性ばかりです。その中に小学6年生の女の子がいて、彼女のおかげでなごやかな雰囲気になったそうです。

なぜ、FM放送ですか？「阪神淡路大震災の時、東灘区は長田区と並ぶ最激震地区でした。長田では在住外国人が多く、日本語の読めない彼らの情報を提供するためにゲリラ的に始めた放送は、住民の役に立ったとして国からの要請を受けて、正式な免許を持つ放送局になりました。東灘は、外国人が多いだけでなく、新住民の比率が高い多子高齢化地域です。また、世代間や、地域間のコミュニケーションの希薄さが気になります。

孤立した人や地域同士をつないでいくことが、今最も大切な課題と考えて、NPO法人ひがしなだコミュニティメディアを立ち上げました。その構想は、動画、静止画を含む映像も音声もあつかうマルチメディア局です。

停電の時に情報を得る簡便な手段として、電波を手段とするラジオが必要です。たまたまFMが地域に開放されている周波数帯であって、緊急時にラジオが有効であるということです。ある大学には、スウェーデン語や中国各地の言葉を話せる人がいます。多彩な専門家集団でもある地域内の大学が協力しあうことで、災害時にそうした言語

圏の在住外国人に対しても情報提供が出来ます。この法人には、東灘区内の大学から個人の資格で参加してもらっています。核になるのは住民や学生ですが、企業や商店にも呼びかけて、できるだけCMに頼らずみんなの力でやりたいと思っています。」

それはそうと、肝心の電波の余裕はあるのですか？「阪神地区は電波が混んでいて、ほとんど余裕はありません。一つだけ、最大4ワットなら出来るかなという周波数を見つけましたが、地デジに移行するメディア激変期を迎えて、既成の方式で参入することが正しい判断か、見直しました。」

問題は資金ですか？「地域に人々がつながるメディアを作ることが最終目標ですから、人々が資金的に無理せず出来る市民参加型メディアであることが大事です。それで「住民が寄ってたかってミニFM局ネットワークを作る」方式を考えています。ミニFMは、500メートルくらいしか届かない微弱な電波なので、電波法の規制対象外です。しかし法人としては、番組審査委員会も作り、放送基準もコミュニティ放送局と同様のものを作ります。受講生には、その核になってほしいと伝えました。みなさん、目を輝かせて聞いてくださいました。資金面でも、市民参加度の高さでも、日本はおろか、世界でも類を見ない画期的なメディアが出来ると確信しています。」

ROCCOは、6つの地域、守・育・食・健・芸・伝の6つのテーマ。六甲、一所。六個、一緒。どっこいしょ！森田先生の熱い思いに、「がんばれ、それどっこいしょ！」と応援したくなりました。早く、小さなアンテナがたくさん立ちますように！放送が始まったら、また取材して、皆さまにご報告いたします。

(黒瀬 記)

神戸ウォーターフロントの文化的整備をめざす 提案募集とシンポジウム

神戸の文化的まちづくりにかかわる市民団体の協力でほんまの会が中心的に取り組んだ「神戸ウォーターフロントの創造的デザイン」と題する懸賞提案募集が、この秋に行われた。8提案の応募があり、11月23日開催の審査委員会(委員長：神木哲男さん、副委員長：宗田好史さん)が当選作を選定した。最優秀賞は郭聖傑さん(京都大学大学院)と蘇佳珮さん(神戸大学大学院)による「kobe-C0」、優秀賞は神戸経済同友会特別会員の上川庄二郎さんによる「ウォーターフロント活性化の鍵を握るハーバーランド&中突堤」と題する提案であった。12月4日(土)には神戸新聞ギャラリーアトリエ50で審査結果発表のシンポジウムが開催され、約50人の参加で熱心な討議が行われた。





ハロウィンフェスタ 2010 in ハーバーランド

2010年10月30日(土)

兵庫県子ども文化振興協会が主催のこの行事は、今年2年目。中央区の「ひと・まち・つなぐ」の助成を受けて開催されました。仮面づくりには8組の親子、ジャックオランタンづくりには11組が参加。午後からのパレードは約60名の親子づれが、神戸情報文化ビルきりん前に集合。京都の大学生ふたりによるジャグリングなどのパフォーマンスをみてから、キャナルガーデン・モザイクを仮装してマラカスをならしながらパレードしました。買い物客たちは、お菓子の袋を持って歩く子どもたちを、興味ぶかく見ていました。ハーバーランドの定番行事として、街全体に広がっていくといいなと思いました。

平澤 寿枝

「都市と文化をめぐる」講座 第19回 「ウィーン」

都市と文化をめぐる講座を毎回楽しみにしていますが、今回は一度行ったことのあるウィーンでした。講座でいつも感じるのですが観光旅行では気づかない建物の特徴や独自性などの解説です。今回も以前の旅行では気づかなかった町並みの解説では細かい模様や小さい飾りのある建物を指摘して街中の雰囲気を高めているとの指摘があり、また有名なシュテファン寺院の前にはモダニズムの派手な建物が周囲の雰囲気を壊していることなどの解説がありました。今後もこの講座に参加してまちづくりの観点で見る世界の街を神戸のまちづくりに活かすことが出来ればと思っています。

(義)

◎「都市と文化をめぐる」講座

第20回 「ストラスフォード・アポン・エイボン」

日 時：1月20日(木) 18:30

会 場：ハーバーランド文化村

講 師：竹山清明(京都橘大学教授)

参加費：500円(資料代)

旧神戸生糸検査所と新港地区(その14)

中尾嘉孝(港まち神戸を愛する会)

国立神戸生糸検査所の増築部の設計は、建築家・置塩章(おしおあきら)の事務所が担当することになった。

置塩は明治14年(1881)、静岡県島田に生まれた。実家は代々下本陣を勤め、父・藤四郎(1855~1928)は号を棠園といい、国学者で、後には島田町長を務めた人物だ。

第三高等学校を経て東京帝国大学工科大学に入学、建築学科を選択、明治43年(1910)卒業した。同級生は住友総本店を経て、昭和初期に竹腰健造と共に独立し、今日の日建設計に至る事務所を設立することになる長谷部鋭吉、岡山で活躍した薬師寺主計、司法省に入り豊多摩監獄を残すも夭逝する後藤慶二など、『花の四十二年(度卒業)組』と称された秀英揃いだった。

(ちなみに、置塩と共に、大正初期から関西で活躍する建築家・渡邊節は置塩より1年先に卒業した。置塩によれば、卒業設計の国会議事堂の図面に取り組むも提出期限に間に合わないという渡邊を皆で手伝ったことがある、と後に語っている。)

卒業後、陸軍省に採用。大阪城内にあった第四師団経理部勤務となる。現在も残る旧大阪砲兵工廠化学分析場(大正8年(1919)は、この時期の現存する唯一の作品である。

大正9年(1920)、旧都市計画法の施行に伴う地方技師の増強に伴い、内務省に移り、都市計画地方委員会技師兼兵庫県内務部営繕課課長に任命された。

兵庫県時代は、兵庫県議会議事堂(大正11年(1922)竣工)、神戸税関港務部庁舎(大正14年(1925)竣工)、長田(大正11年(1922)竣工)、三宮(大正13年(1924)竣工)の各警察署庁舎や、第一神戸(大正13年(1924)竣工)、第二神戸(昭和2年(1927)竣工)の各高等女学校といった学校建築など、公共建築の鉄筋・不燃化を推進するとともに、大正14年(1925)5月に発生した北但大震災では、豊岡町(現豊岡市中心部)の復興都市計画を立案するなど都市計画を先導した人物でもあった。

昭和3年(1928)、置塩は兵庫県を退職し、自営の建築家として再出発した。

(この項つづく)



文化 情報

ここでは、加盟団体・個人の文化情報をお伝えします。各行事への参加については、前もって主催者にお問い合わせ下さい。

今回は、2012年2月中旬に発行の予定です。2012年3～4月の予定をお知らせ下さい。2月初めまでにお願ひします。

担当者：黒瀬晴世 (TEL.FAX/078-531-4903)

〒652-0058 神戸市兵庫区菊水町10丁目39-11-1-507

NPO神戸100年映画祭

TEL/954-8044 FAX/954-8066

☆ K E N—V i 名画サロン

「コーラス」 (04年フランス)

日時：2月4日(金) 5日(土)

①10:30 ②13:00 ③15:00

会場：県立美術館ミュージアムホール

料金：1,000円

☆ ピフレ・シネマサロン

「春との旅」

日時：1月27日(木)

①10:30 ②13:30 ③16:30

会場：ピフレホール

料金：800円

サロン・ド・あいり TEL/241-1898

「10周年コンサート」

出演／釋恵一(P)

久保比呂誌(津軽三味線とP)

高橋キヨシ(ラテンギター)他

日時：1月30日(日)13:30

会場：中華会館東亜ホール

料金：3,800円

あいり・de・オペラ TEL.FAX/252-3436

映像で楽しむオペラ講座第30回

「ローエン格林」

リヒャルト・ワグナー作曲

バイロイト祝祭管弦楽団&合唱団

ウォルデマール・ネルソン指揮

日時：2月3日(木)18:00

会場：サロン・ド・あいり

解説：竹山清明(オペラ大好き建築家)

料金：2,500円(食事・ドリンク付き)

NPO兵庫県子ども文化振興協会

TEL.FAX/361-1152

メモリアルコンサート

「詩の朗読と音楽の夕べ」

出演／竹下景子(朗読)

林晶彦(ピアノ)

鈴木一郎(ギター)

日時：1月17日(月)19:00

会場：灘区民ホール(マリホール)

JR六甲道からシャトルバス運行

前売：2,000円

神戸東おやこ劇場 TEL.FAX/441-0836

神戸中央おやこ劇場 341-8069

神戸垂水おやこ劇場 706-1810

神戸須磨北おやこ劇場 976-0023

☆ 小学高学年・中学生以上例会

ラブリーコンサート

「新井深絵コンサート～心 げんきに～」

日時：1月16日(日)14:30/18:30

会場：神戸新聞松方ホール

前売：2,500円 友の会会員2,200円

子ども1,500円

神戸演劇鑑賞会

TEL/222-8651 FAX/222-8653

2月例会 井上ひさし追悼例会「化粧」

(こまつ座公演)

作／井上ひさし

演出／鶴山 仁 出演／平 淑恵

日時：2月24日(木)19:00

25日(金)19:00

26日(土)13:30

会場：新神戸オリエンタル劇場

神戸芝居カーニバル実行委員会

TEL/090-1914-4907(中島)

「高橋悠治with波多野睦美」

出演／高橋悠治(ピアノ)

波多野睦美(メゾ・ソプラノ)

日時：2月27日(日)15:00

会場：神戸新聞松方ホール

前売：3,500円 友の会3,000円

神劇まわり舞台

5. 劇団どろ

TEL.FAX/641-0045

「いやいやながら医者にされ」

作／モリエール

演出／合田幸平

日時：1月22日(土)13:30/18:30

23日(日)13:30

会場：アートシアターd B

(新長田大正筋アスタ4番館)

料金：2,200円 学生1,700円

6. 劇団道化座

TEL/803-2458 FAX/803-2459

「スーホの白い馬」

作／渡辺鶴 演出／須永克彦

日時：2月11日(金)14:30

会場：灘区民ホール

料金：2,000円 子ども1,000円

演劇講座10

-日本の第二次世界大戦後の戯曲から②-

—私流の井上ひさし

講師：平田 康(京都橘大学名誉教授)

参加費：会員500円 会員外1,000円

連絡先：TEL/222-8651 FAX/222-8653

神戸演劇鑑賞会・田中

第4回「きらめく星座」

1月11日(火)14:00 劇団四紀会

12日(水)19:00 ハーバーランド文化村

第5回「闇に咲く花」

2月8日(火)14:00 劇団四紀会

9日(水)19:00 ハーバーランド文化村

ギャラリー島田

TEL.FAX/262-8058

1月8日～25日 永田耕衣書画展

◎ギャラリー島田コレクションオークション

1月29日～2月2日メインオークション

2月5日～9日 サブオークション

2月12日～15日 チャリティオークション

いちばぎやらりい侑香 TEL.FAX/361-5055

1月10日～21日 (17日休み)

2011年の絵描きさん小品展

2月1日～19日 前田章賀資料展

江戸時代の人名録

～あなたのルーツがわかります

神戸映画サークル協議会

TEL/371-8550 FAX/371-8551

1月例会

「アウェイ・フロム・ハー—君を想う」

(06年カナダ)

監督／サラ・ポーリー

原作／アリス・マンロー

日時：1月21日(金)22日(土)

①11:00 ②13:30 ③16:00 ④18:50

①11:00 ②13:30 ③16:00 ④18:30

会場：産業振興センター3Fホール

2月例会 「フローズン・リバー」

(08年アメリカ)

原作・監督／コートニー・ハント

出演／メリッサ・レオ

日時：2月18日(金)19日(土)

①11:00 ②13:30 ③16:00 ④19:00

①11:00 ②13:30 ③16:00 ④18:30

会場：産業振興センター3Fホール

受賞

「港まち神戸を愛する会」の武田則明さんが、神戸を元気づけた人に贈られる「第20回ロドニー賞」に選ばれました。

劇団創立30周年を迎えて 第2回 「もっと土俗を、あるいは、 市民社会を戦慄せしめよ！」

劇団風斜代表 日下部佐理

アングラ演劇は、ことば＝意識の底にある身体の叛乱を目指したが、それは近代的な市民社会という表層の地下で眠る、深層としての「土俗」の世界への回帰も志向することになる。哄笑や号泣、痙攣や憑依などの根源的な身体表現を排除し衰弱した近代的リアリズムや近代心理劇を超克しようとする試みだった。脳性小児マヒの動きそっくりの、土方巽が創り出した暗黒舞踏(ブト)の流れがある。始原的な生命感覚にはエロティックなものも含まれる。

これらの志向性は、近代以前の芸能表現、歌舞伎、能・狂言などの旧劇や説教節などの民間芸能への回帰となり、定住農耕民から差別された漂泊する芸能民(高野聖、八百比丘尼、白拍子、傀儡、阿弥を名乗った下級宗教民)への親和性となって現象する。我々は河原乞食の末裔であるという自己認識である。日常＝市民社会を震撼させ、日常を解体する異形性こそが演劇の本質である。もちろん、『遠野物語』の「山人」仮説で「願わくは平地人を戦慄せしめよ」と言い放った初期の柳田民俗学と軌を一にする。別役戯曲の不条理にも受け継がれているし、ブレヒトの異化とも通じるものがある。必然として、このことは、蛇女・ろくろ首などの縁日の見世物小屋や、ストリップ・SMショーなどの劣情をそそるスキャンダルという、近代演劇からは、いかがわしいだの、低俗だのと排除されたスペクタクル(見世物)性の復権へと突き進まざるを得ない。血、供犠、聖一賤の円環、娼婦と聖女。これぞ日本的超現実主義だ。さらには、寺や神社の境内での小屋掛け、テントによる野外劇、街頭劇。劇場やプロセニアムアーチの破壊に広がっていく。

しかし、これらが表現として固定化、つまりパターン化した時、それは瞬時に腐臭をたて始める。70年代から80年代にかけて、西武パルコに象徴される高度資本主義の強靱な胃袋はこれら異形のことをエキゾチズム(異国趣味)として飲み込み同化していくのである。

<お詫び>

前号において、以下の下線部が抜けておりました。ここに訂正しお詫びいたします。
本文7行目～8行目

(誤) 現を獲得する試み、それが身体の復権だった。換言すれば、これは「文学」とも言え、演劇とは何かという自意識の揺らぎに他ならなかった。

(正) 現を獲得する試み、それが身体の復権だった。換言すれば、これは「文学」の支配からの「演劇」の解放であり、「戯曲」の解釈に転落していた「演出」の自立とも言え、演劇とは何かという自意識の揺らぎに他ならなかった。